

国語科通信(3学年) その3

係助詞「は」について

令和2年4月28日

●「筋肉は裏切らない」

「人はことに目もとどめを…」

古文の学習では「助動詞」や「敬語」の語法の習得が大切になりますが、実は、「助詞」も非常に大切になります。

①まず、「は」は「格助詞」ではなく、「係助詞」です。間違えて覚えている人が多いです。「係助詞」は、「ぞ」「なむ」「や」「か」「こそ」「は」「も」の7つです。「7つ」とまず覚えることが大切です。

②「が」が「主格」などを示すのに対し、「は」は、「他と区別」する働きがあります。

③口語では、「は」は副助詞に分類しますが、基本的な働きは同じです。

・「筋肉は裏切らない」という例文で、「は」の働きをくっきりさせましょう。この文句がヒットした(面白い)のは、たとえば人の心は裏切るかもしれないが(彼女に裏切られた等)、「筋肉」は、

必ず鍛えただけ正直に忖えてくれる、必ず報われる…そういうことを端的に伝えているからです。あるいは、言外に、「裏切る」ことが多い世間で確実に裏切らないものもある、とパロディーとして受け取ることができるからではないでしょうか。

④さて、課題となっている『和泉式部日記』（教科書）の本文の始まりに、「築地の上の草青やかなるも、人はことに目もとどめぬを、あはれと眺むる…」という箇所があります。ここでも係助詞「は」が効いています。他の人は特に目を留めることはないが…と続き、その後、「人」と対比される「私」を補って訳出する。ここが、ポイントです。

④「私」とはどこにも書いてありませんが、係助詞「は」によって、言外の主語「私」を補うことができるわけです。

⑤大切な人を失い、失意の中、時の流れが止まってしまったように暮らしていた時、ふと、戸外の自然に目をやると、初夏の緑で溢れている。確実に時間、自然は巡ることに気付かされる。その感慨深さを「あはれ」と表現します。それは、今風のことはばでいう「癒やし」の始まり、そして、新しい人生の時間（恋）の始まりも暗に示すものです。味わい深い書き出しではないですか。

⑥ たかが「は」、されど「は」です。助詞は、細やかな意味を添える大切な品詞です。文法の学習と言っても決して「暗記」では解決しない、奥深いものがあります。

⑦ 面倒と思うか、面白いと思うか。言葉の使い分けを厳密にしようとする姿勢は、「科学」的姿勢のはじまりです。「趣味」的世界の「遊び」ではありません。

⑧ 助詞を使いこなすことは、英語学習での「和訳」や、他のさまざまな教科の説明のことばにも関係があります。

⑨ 補足1: 「人」も辞書で一度必ず調べてみてください。

・人間／世間の人／他の人／おとな／りっぱな人／あの人・意中の人／身分／人柄・性質(旺文社『全訳古語辞典』)…

単に「人」と訳さず、人の上に「～の人」とできるかが大事です。

・簡単に見える語が大切です(本当はそうでないという意味で)。

「思ひ」「こころ」などもこまやかで多義的です。何度も辞書を引いてほしい語です。

⑩ 補足2: 口語においても「は」、そして、「も」などが同様に大切

です。現代文で、やたら、「しかし」に△などつけているよう

ですが、むしろ、文末の表現や文中の助詞に注意を払うべきです。